

水原市街地循環線 試験運行 結果報告書

1 路線

水原市街地循環線

E系統 (3.0km)

F系統 (8.9km)

2 時間帯

9時～17時

E系統 1時間毎に 8便

F系統 10時と 15時を除き 1時間毎に 6便

3 期間

平成 28 年 2 月 15 日 (月) ～3 月 18 日 (金) の平日 25 日間

4 実車走行キロ

1,935km (2,416km 回送含む。)

5 利用者数

(1) 総利用者数 106 人

(2) 1 日当り利用者数 4.24 人

(3) 停留所別利用者数 グラフ 1

(4) 時間帯別利用者数 グラフ 2

6 利用者アンケート

(1) 期間 平成 28 年 2 月 15 日～3 月 18 日

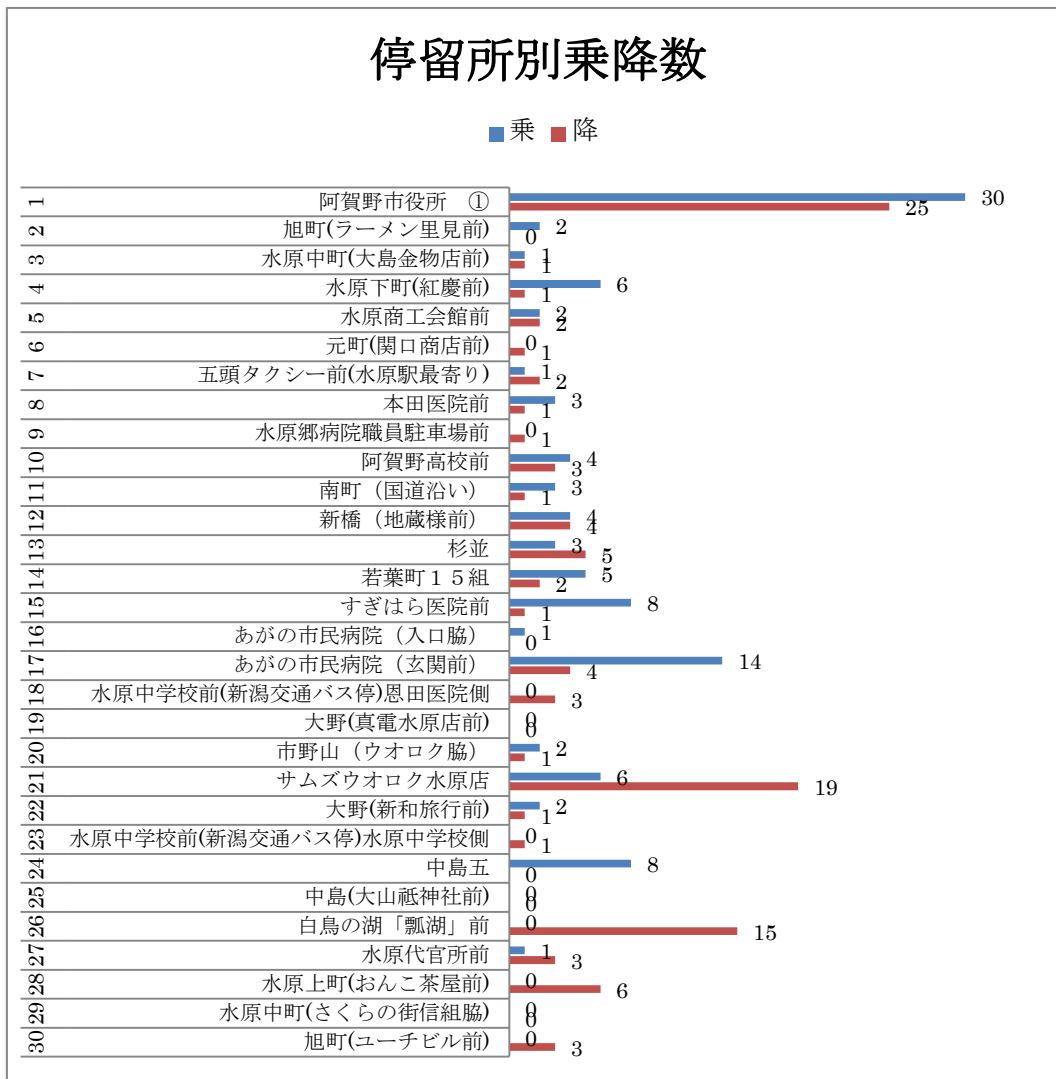
(2) 対象 水原市街地循環線利用者

(3) 方法 車内配付、車内回収

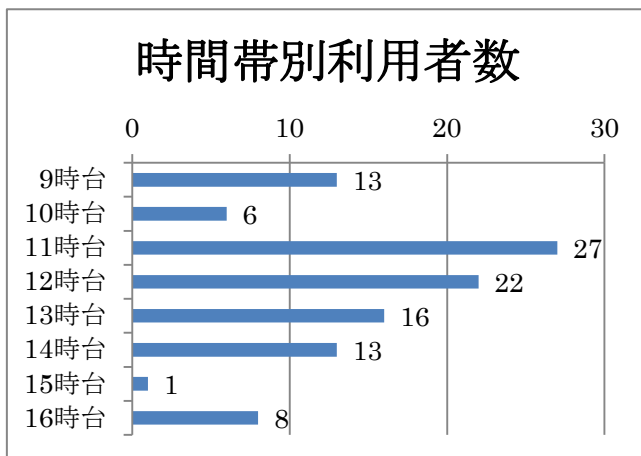
(4) 回答数 31

(5) 回答結果 別紙 1

グラフ 1



グラフ 2



7 検 証

(1) 利用者数

期間内の総利用者数は106人、1日当たりでは4.24人であり、市営バスの通常路線（H26実績で、前山線13.6人～分田線85.3人、平均37.39人）に比べ、かなり少なかった。期間が1か月と短く、市民に浸透しなかったことが一因とも考えられるが、現状では需要が少ないと考えられる。

(2) 停留所別利用者数

乗車、降車とも「市役所」が最も多い。

乗車は「あがの市民病院」が2番目に多く、病院から市街地への移動を促すという所期の目的に合致している。

降車は「サムズウオロク水原店」が2番目に多く、利用者アンケート結果でも買い物目的が最も多くなっていることに合致している。これらを商店街に誘導するには、商店街そのものの魅力付けが必要と考えられる。

また、瓢湖の降車数は3番目であり、瓢湖の集客力が確認できる結果であった。

(3) 時間帯別利用者数

11時台から13時台までの利用者が多く、市街地内を移動する人々の活動時間帯が確認できる。

なお、10時台と15時台の利用者が極端に少ないのは、F系統の運行がないためである。

(4) 利用者の年齢層

60歳以上が約7割を占めている。運行経路・時間帯から通勤・通学利用がないためと考えられる。

(5) 利用目的

利用目的は、買い物が17%で最も多く、通院が14%でそれに次ぐ。その他、観光や趣味・娯楽など様々な目的に利用されている。

(6) 利用者の感想・意見

実際に利用した人には概ね好評であり、このまま運行してもらいたいという意見が多かった。ただし、利用者の絶対数が少ないため、実際に正式路線とする判断には不足と考えられる。

以上